

学校法人同志社は、創立以来、建学の精神を高く掲げ、良心を手腕に運用する人物を社会に送り出す努力を続けてきました。教育に係る経済的負担の軽減は、法人内各学校・園（以下「各学校」という。）に関わる国の重要な政策課題で、中でも高等教育の修学支援新制度の発足に伴い、これまでも増して学生ファーストの信条を活かすべく、充実した奨学事業を進めることとなります。大学、女子大学においては引き続き厳格な入学定員管理にも留意しなければなりません。

このような環境の下、本法人は今後も夢と希望に溢れる学園環境の整備に邁進し、社会の中で地の塩、世の光となり、混迷する環境を率先して切り拓いていく原動力となる人物の養成に努めます。

2020年度に法人及び各学校が実施する主な事業を説明します。

【教学組織】

同志社女子大学では、収容定員増加により、安定的な運営を継続的に行う基盤づくりを進めます。また、大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）を開設し、さらなる研究教育の高度化を推進します。

【教育研究】

学校法人同志社の特色は、幼稚園から大学までの一貫教育体制を有することに加えて、各学校が同一の建学の精神と教育理念を共有し、同じ目的に向かって教育研究活動を展開しているところにあります。各学校が、建学の精神に基づき、キリスト教主義、国際主義、自由主義を教育理念とする教育を、学生・生徒・児童・園児それぞれの発達段階に即して実践し、良心を手腕に運用する人物を養成することが同志社の目的であり、使命です。

法人では、一貫教育探求センターが各学校の英知を結集し連携を図りながら、教育効果向上のための各種研修会の開催、教員の自主的な研究会への支援、課外活動・スポーツ支援を含む指導・顕彰制度の充実、各学校が所管する各種留学制度の連携、文部科学省が実施する教育事業への申請の支援、法人広報の強化などに取り組みます。

同志社大学では、①学部・研究科、教育支援機構及び高等研究教育院の連携を深め、グローバル・リソース・マネジメント（GRM）、Community5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム、ALL DOSHISHA 教育推進プログラム、新島塾といった、特色ある各種教育プログラムの開発及び実施を進めます。②企業との連携が研究及び教育の深化には必要不可欠との認識の下、いくつかの企業との「組織」対「組織」の連携スキームの強化を進めます。③同志社大学テュービンゲン EU キャンパスにおける教育研究を充実させるため、学生、教員、職員を派遣します。

同志社女子大学では、大学、企業、医療機関、福祉施設、官公庁といった多方面に渡る機関との連携に係る協定締結に基づき、特色ある教育研究事業を展開します。また、授業支援システムの機能を最大限に活用して、レポート、小テスト、課題などの学生へのフィードバックについて強化を図り、さらに授業アンケートについても授業支援システムを利用することにより結果開示の迅速化を図ります。

【学生・生徒・児童・園児の支援】

同志社大学及び同志社女子大学では、国の「高等教育の修学支援新制度」が実施される中、2019年度までに準備を進めた新たな奨学金制度の運用を開始します。

同志社女子大学では、両キャンパスに障がい学生サポートセンターを新たに設置するほか、京田辺キャンパスで建設事業を進めてきた「いづみ寮」の供用を開始します。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、

同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院、同志社幼稚園では、生徒・児童・園児が安心して勉学に専念できるよう、修学支援のための奨学金制度を継続します。

【学生・生徒・児童・園児の受け入れ】

18歳人口は2018年に118万人（100%）であり、2030年には101万人（85.6%）となります。12年後に大学が影響を受ける少子化問題に小学校は現在直面しています。2018年生まれの人口（2036年に18歳となる大学受験者）は87万人（73.7%）です。このように、今後、受験者の獲得が年を追って厳しくなる環境の下で、各学校が積極的に取り組んでいる合同学校説明会あるいは個別の学校説明会に対し、法人として、同志社一貫教育委員会の下に設置された実行部会及び同志社一貫教育探求センターができる限りの支援を行います。

同志社大学及び同志社女子大学では、建学の精神及び教育理念の具現化を目指し、個性ある人物を養成するべく大学入学者選抜の多様化を推進するという従来の方針を踏襲するため、大学入学共通テストの活用に取り組みます。

【人事厚生】

法人では、各学校の人事計画に基づき、以下の人員数（専任教職員）を基礎として教職員に係る人件費を計上し、各学校の運営にあたります。

（単位：人）

	教員			職員		
	2019年度	退職採用	2020年度	2019年度	退職採用	2020年度
同志社大学	642	△30 +30	642	350	△9 +7	348
同志社女子大学	125	△8 +7	124	77	- +1	78
同志社中学校・高等学校	87	△2 +2	87	11	- -	11
同志社香里中学校・高等学校	68	△3 +2	67	8	- -	8
同志社女子中学校・高等学校	67	- -	67	9	- -	9
同志社国際中学校・高等学校	55	△4 +4	55	7	- -	7
同志社小学校	27	- -	27	2	- -	2
同志社国際学院	17	- 7	24	2	- -	2
同志社幼稚園	4	- -	4	-	- -	-

【施設設備】

1. キャンパス整備

同志社大学では、外国人と日本人の混住環境と寮内での教育プログラム実現を目指した新学生寮（教育寮）及び耐震化対策の一環としての致遠館の建設工事を進めます。また、今出川キャンパスでは寒梅館の空調設備改修工事、寧静館の一部事務室移転に係る弘風館改修工事及び有終館西側塀改修工事などを行います。京田辺キャンパスではトイレ改修工事、香知館の空調設備更新工事並びに体育施設更新としてラグビー場人工芝張替え及びテニスコート増設などを行います。

同志社女子大学では、「キャンパス営繕計画」に基づき、施設設備の安全性向上を最重点課題として、今出川キャンパスのブロック塀と体育館特定天井に対して対策を講じます。また、経年劣化対応として、今出川キャンパスでは図書館の空調設備更新及び外壁改修、京田辺キャンパスでは各所の空調設備更新及びトイレ改修を進めます。

同志社中学校・高等学校では、南体育館及び付属棟建設工事を進めます。

同志社香里中学校・高等学校では、メディアセンター（仮称）建設工事を進めます。

同志社国際学院では、ICTシステムを更新します。

同志社幼稚園では、新園舎での活動を開始するにあたり、警備・清掃・施設管理等に係る新たな運営方法を構築します。

2. 大規模地震等防災対応

同志社大学では、2019 年度中に整備した安否確認システムを活用し、秋学期に今出川キャンパスで全学防災訓練を実施します。

同志社女子大学では、2019 年度に実施した全学避難訓練から得た課題を生かし、両キャンパスでの同時実施、地震による施設設備の倒壊及び火災や要救助者が発生した場合の訓練、避難所設置・運営等の要素を加えた全学避難訓練を実施します。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院、同志社幼稚園では、従来から行ってきた全校生徒、児童、園児を対象とした避難訓練を実施すると同時に、大規模災害発生時の備品・備蓄品の充実に注力します。

【財政】

法人では、中期財政目標及び中期財政計画を定め、これに単年度の予算編成を組み合わせ、財政運営を行い、財政基盤の安定化を図ります。また、中期財政計画の達成状況について毎年、点検・評価を行い、必要な見直しを行うことにより次年度の予算編成に繋がります。

1. 2020 年度財政目標

財政目標は、中長期財政計画において定める事業活動収支差額比率と減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率の達成を目指し、2020 年度では事業活動収支差額比率は 8%以上、また、減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率については、70%以上を目標とします。2020 年度予算における事業活動収支差額比率は目標どおりとはなっていませんが、予算執行において収入の多様化及び支出の抑制を更に進め、財政目標の達成を目指します。

2. 2020 年度予算

(1) 収入の多様化

- ① 学生生徒等納付金については、入学定員どおりの学生、生徒、児童、園児数を見込みます。同志社大学においては、2020 年度入学生の学費のうち、授業料について増額改定を行います。
- ② 寄付金については、「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」、「同志社女子大学 サポーターズ募金 “ぶどうの樹”」、高等学校、中学校、小学校、幼稚園の父母を対象とした募金を積極的に展開します。
- ③ 補助金については、同志社大学及び同志社女子大学の私立大学等経常費補助金及び高等学校等の運営費補助金等について、補助金の動向を勘案し計上します。
- ④ 付随事業・収益事業収入については、特に同志社大学において産学連携活動により積極的に展開するものとして、受託事業収入の増収を図ります。
- ⑤ 受取利息・配当金については、資金運用計画に基づく効率的な資金運用を行うことを旨としつつ、予算段階においては確実に収入が見込める額を計上します。

(2) 支出の抑制

- ① 人件費については、各学校の人事計画に基づく所要額を計上します。
- ② 事業費については、効果や実績等を勘案の上、各学校の教育研究推進に必要な不可欠となる事業項目を厳選の上、計上します。
- ③ 将来の施設設備整備に向け、同志社大学、同志社女子大学及び同志社香里中学校・高等学校においては、年次計画に基づく第 2 号基本金への組入を行います。

【記念事業】

法人では、「同志社創立 150 周年記念事業委員会」の下、『同志社百五十年史』刊行に向けて編纂事業に本格的に着手するほか、記念事業の企画・立案を進めます。

以上